



全ての人が輝けるまち  
— 共生社会の実現 —

約2000本のカラフルな傘で

多様な個性を表現



それぞれのカラーで輝くことができる「共生社会」を表現したものです。開催期間中には幅広い年代の方が訪れ、色とりどりの傘を写真に収める姿が見られました。

■問/定住交流課

☎525-3739

皆さんに共生の心を

多文化共生も含む共生社会について、知っていただくきっかけづくりとして企画しました。今後は市内の企業、団体、学校などと協力して、共生社会を進めるため、展示用の傘の無料貸し出しなどを計画しています。興味のある方は市国際交流協会(事務局)・定住交流課までお気軽にお問い合わせください。



定住交流課  
後藤真吾

結・ゆい・フェスタ — ふくしまで世界旅行しよう！



新型コロナウイルスの影響により海外に行けないなかでも、さまざまな国の文化に触れ合い、交流ができるように昨年開催しました。世界中のおいしい食べ物、ゲーム、体験ブースなどを通して親しみやすさまざまな国の文化に触れることができ、外国人と会話する女子高校生からは、マスク越しでも笑顔があふれる様子が見えられます。外国の方が地域社会に参加する機会でもある「結・ゆい・フェスタ」は毎年開催されていますので、開催時にはぜひお越しください。

日本語教育の充実による円滑なコミュニケーションの実現

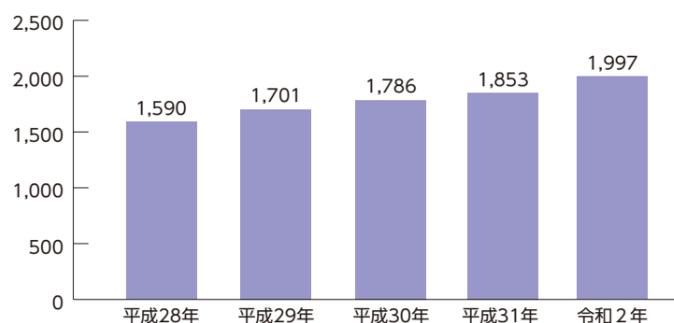


外国にルーツを持つ子どもたちが能力に応じた日本語教育を受け、地域社会での円滑なコミュニケーションがとれるように市立小中学校への「日本語指導サポーター」の派遣や地域のボランティア日本語教室の活用促進などに取り組んでいます。また、外国出身の保護者にも、学校と円滑なコミュニケーションをとるため、通訳を行う「母語サポーター」や日本語指導を行う「日本語指導サポーター」を派遣しています。今年度は、地域のボランティア日本語教室と協力して講座や研修会を開催し、日本語支援を行うボランティアの育成にも取り組んでいます。

多文化共生社会の推進のために

本市に住む外国人は増加傾向にあります。永住者に加え、大学などへの留学生や民間企業などで実践的な技術・知識を学ぶ技能実習生が多くなっています。皆さんが生活している中でも、外国人を見かけたり、外国人と関わりを持つ方も少なくないと思います。そうした本市に住む外国人の増加などをきっかけに、市では「多文化共生のまち福島推進指針」を策定し、行政だけに限らず、

各年3月末時点の福島の外国人住民の推移(単位:人)



外国人に向けた情報発信

市国際交流協会ではSNSを通じてイベントや生活情報などを発信し、外国人の地域社会への参加や生活のサポートをしています。



Facebook



Instagram



▲多文化共生のまち福島推進指針について

市民の皆さん、民間企業、地域コミュニティなどが協力して多文化共生社会を推進するために「相互理解」適切な情報伝達・共有手段の確保「生活サービス・環境の改善など全部で6つの施策目標を定めています。その中から実際の取り組み事例をご紹介します。

ききたいことありますか？

## 外国人生活相談窓口 — Have a Question? —

市役所1階には、外国人の生活全般に関する相談を受けて、市役所や行政機関での手続きをお手伝いする外国人生活相談窓口を設置しています。(平日 午前9時~午後4時)



「家に届いた書類が読めない」、  
「申請書の書き方がわからない」、  
「コロナのことが心配」などのさまざまなご相談にスタッフが対応します。



スタッフは英語、フランス語、  
韓国語、日本語が話せます。  
その他の言語の場合も、対話型翻訳機で100以上の幅広い言語に対応しています。



新型コロナワクチン、運転免許、  
ハザードマップなど、日常生活に必要な情報を外国語で標記したものも備えています。



英語・中国語・韓国語・ベトナム語など10言語の多言語翻訳・音声読み上げができる無料アプリ「Catalog Pocket」でふくしま市政だよりのデジタル版を配信しています。

